

8 月 20 日から 22 日にかけて日本の横浜で第 9 回アフリカ開発会議(Tokyo International Conference on African Development:TICAD9)が開催されました。アフリカの開発について包括的にアフリカの首脳を招いて話し合うこの会議は 1996 年に始まりました。今年で 9 回目になります。今年为首脳会議は昨年に閣僚級の会合を開くなど周到な準備を経て開催されました。ウガンダはアルポ副大統領をトップに 3 人の閣僚を含む大代表団を横浜に派遣。日本への期待の高さを感じました。

筆者は 2008 年に同じく横浜で開催された TICAD4 に関わりました。TICAD は多くのアフリカの首脳が日本に集まり日本の総理大臣や国際機関、開発関係者と話し合う政府間の会議です。その根幹部分は今も変わりません。今回非常に大きな発展があったと感じたのは参加者の幅が非常に広がったということです。企業関係者や NGO の方々の参加は以前からもありました。今回はさらにスタートアップや学生の皆さんなど様々な背景や考え方をもち多くの参加者を得たことも収穫の一つと感じました。アフリカが抱える課題の多様性、その解決に挑む人の多様性はすでに指摘されていることだと思います。それをまさに体現した TICAD でもあったと考えます。

ここウガンダからも多くの方々が参加されました。本当にたくさんの方々がたくさんのことを実施されたようでその全貌を掴むのは容易ではありません。そこで参加された方から直接お話を伺い共有する機会をウガンダで設けました。

具体的には下記の皆様に TICAD9 での体験を披露していただきました。

- ・豊田通商/CFAO
- ・COURIEMATE(松本弘氏)
- ・RICCI EVERYDAY (9 月号でもご紹介した仲本千津氏)
- ・SUNDA TECHNOLOGY GLOBAL (CEO 坪井彩氏)
- ・NPO法人 道普請人 (岩村由香氏)
- ・JICA 専門家の皆様 (ICT振興、農業、ODA)

TICAD9 では公的機関のエリアよりも民間企業等の関係者のエリアの方が盛り上がっていたというような辛口のコメントもありました。テーマ別イベントは 200 を超え結ばれた MOU は 300 を超えたとのこと。また今後は会議の成果として MOU の数だけではなくもっと個別具体的な成果に焦点を当てるべきであるとのコメントもありました。

今回の集まりに TICAD9 に参加はされませんでしたでしたが独自にプロジェクトをクラウドファンディングを通じて立ち上げた方や日本の大学生が急遽参加してくださりました。

アフリカに関心を持つ方、社会的課題の解決を始め、何らかの関わりを持とうとされる方は確実に増えていっているとの思いを強くしました。



〔報告会の様子〕



（以上）